



Title	日本語の「のだ」とスペイン語のes que 及びその類似表現の対照研究 : es que, y es que, y, pues, acaso を中心に
Author(s)	マジョール ロドリゲス, ホルヘ ダニエル
Citation	間谷論集. 2022, 16, p. 83-104
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91351
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

〈研究論文〉

日本語の「のだ」とスペイン語の es que 及び その類似表現の対照研究

——es que, y es que, y, pues, acaso を中心に——

マジョール ロドリゲス ホルヘ ダニエル

〈キーワード〉 のだ構文 es que 構文 類似表現 対応関係 平叙文 疑問文

1. はじめに

日本語の「のだ」は、名詞化の機能を持つ準体助詞の「の」に「だ」が後接し、それが一語化したものだとされる（野田 1997）。また、「のである」、「のです」、音便形の「んだ」、「だ」を省いた「の」や、他の語を後接させた「のだった」、「のだが」、「のか」、「のだろうか」など、「のだ」構文は様々な形をとって現れる（福嶋 1994）。

- (1) 結局のところ、政局に大きな変化は期待できないのである。
- (2) 昨日は学校を休みました。頭が痛かったんです。
- (3) やっぱりこれでよかったんだ。
- (4) そんなわがままは言わないの。
- (5) もう少し早く準備しておくのだった。
- (6) 朝の5時？ そんなに早く起きるのか？
- (7) 何かいいことでもあったのだろうか？

意味機能としては、当該の文が他の文や状況と関連性を持っていることを表す形式の一つでもあるとされており、場面や文の形態（種類）によって様々な用法がある。例えば、平叙文の場合は、「理由」、「解釈」、「言い換え」、「発見」、「再

認識」、「先触れ」、「前置き」、「命令」、「認識強要」などの意味を、疑問文の場合は、「説明要求」、「関心・興味」、「驚き」、「意外」、「非難」、「憤慨」、「困惑」、「詰問」などの意味を表している（吉田 1988）。

一方、スペイン語の *es que* は繫辞動詞 *ser* の 3 人称単数現在 *es* に名詞節などを導く接続詞 *que* が付加した形式（和佐 2005）で、形式的に日本語の「のだ」に対応するとともに、当該構文が表す様々な意味も類似している。例えば、平叙文の場合は「説明・言い訳・弁解」など、疑問文の場合は「驚き・疑い・反論」などの意味を表す（Gili Gaya 1961）。

従来の研究では、日本語の「のだ」構文に相当するスペイン語の表現は *es que* 構文であるとされているが、*es que* 構文で「のだ」構文の表す意味内容のすべてを表せるわけではないという指摘もみられる（福畠 1994、和佐 2005）。

しかしながら、*es que* に対応しない「のだ」文でも、その意味機能をスペイン語の別の表現で表すことが可能である。例えば、以下の日本語の会話とそのスペイン語の翻訳を見てみよう。

(8-a) 「何をしていらっしゃるんです?」といつまでも朝食の卓に来ない良人を、家の中から利枝は促した。

「富士を見ているのだ。」テラスから本多は答えたが…

（三島由紀夫『暁の寺』322）

(8-b) ‘¿Qué estás haciendo ? -preguntó Ric desde la casa a su marido, que aún no había entrado para desayunar.

‘Estoy mirando al Fuji.’-respondió desde la terraza.

（El templo del alba, 290）

日本語では問いかけの文にも応答の文にも「のだ」が使用されているが、スペイン語の翻訳では *es que* は使用されていない。これは、*es que* によって当該の「のだ」の意味を訳すことができず、スペイン語では *es que* を伴わない「無標」の文で言い表すしかないと諦めなければならないということを示しているのだろうか。しかし、実際は諦める必要はない。上記の例における「のだ」に相当する

意味を上手く伝えることができる、別の表現がスペイン語にはある。並列接続詞 y と es que を組合わせた y es que、理由・原因を表す pues を用いることで、この場合の「のだ」に近い意味（情報要求と状況説明）を伝えることが可能である。

- (8-c) ¿Y es que qué estás haciendo ? -preguntó Rie desde la casa a su marido, que aún no había entrado para desayunar.
'Pues estoy viendo al Fuji.' -respondió desde la terraza.

このような背景のもと、本論文では、日本語の「のだ」の意味に相当する、es que 以外のスペイン語の表現を考察し、それらが「のだ」とどのような対応関係にあるかを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究・関連研究とその問題点

2-1. 日本語の「のだ」構文に関する先行研究

日本語の「のだ」構文に関する先行研究は数多く存在するが、その主要な先行研究である野田（1997）や田野村（1990）は、「のだ」の意味機能を以下のように述べている。

野田（1997）は「のだ」の多様な機能、用法を包括的に考察・分析し、整理している。「のだ」の文と名詞との共通性を重視し、かつ名詞文との相違にも注意を向けながら論じている。また、「のだ」の意味・用法として、対人的ムードとといった側面の存在を指摘しており、さらに、ムードの「のだ」は、それが担うムードのタイプ、および状況や先行文脈への関係づけの有無、といった二つの軸によって、四種に交差分析をしていると主張した。

田野村（1990）は、「のだ」の働きや用いられる条件について詳しく述べており、疑問・推量・否定・仮定・終助詞・文体といった文法の諸問題についても考察している。

2-2. 「のだ」構文と es que 構文の対照研究

日本語の「のだ」構文とスペイン語の es que 構文の数少ない対照研究の先例

として、福畠（1994）及び和佐（2005）がある。福畠（1994）は、スペイン語における「のだ」に類する形式である *es que* を、日本語の「のだ」と比較し、その共通点と相違点を明らかにするために文例収集とインフォーマント調査を行った研究である。

そして、肯定か否定で答えられる問いである *es que* 無しの疑問文とは違って、*es que* 疑問文は状況の釈明を必要とするときに使われると述べている。「のだ」は極めて高い頻度で用いられ、疑問詞の種類を問わないのに対し、*es que* は、「のだ」に比べると頻度が低く、理由を問う疑問詞とのみ共起することを明らかにした。

和佐（2005）では、スペイン語の *es que* の本質的意味を明らかにするために、日本語の「のだ」構文との対照が行われている。また、平叙文や、疑問文、条件文など、異なる条件の下で両者の比較がなされ、共通点と相違点が述べられている。

一方、従来の研究で、*es que* 疑問文は、副詞 *acaso* が共起する疑問文と同じ意味を表す＜傾き＞を持つ疑問文で、両者には①修辞疑問文となる用法（Gili Gaya 1961）と②文脈から話し手が推論した仮説を問う方法が存在する（Wasa 2001）と指摘されている。

2-3. 問題点

日本語の「のだ」構文とスペイン語の *es que* 構文の対照に関する先行研究に共通する問題点として、＜問題点1＞「のだ」構文との比較において、*es que* のみが考察対象とされ、スペイン語の他の表現があまり考察されていないことが挙げられる。さらには、＜問題点2＞スペイン語の他の表現については、「のだ」構文との意味的な対応を考察した研究は管見の限り存在せず、また、スペイン語研究としてもそれらの（存在や）特徴について十分に研究されているとは言えない。

3. 「のだ」構文に対応する、*es que* 構文以外のスペイン語の表現

スペイン語の *es que* 構文が「のだ」構文に対応しない場合であっても、別の

表現を用いることでその意味機能を表すことができる。どういう表現があるかは以下の通りである。

「のだ」のさまざまな意味機能について、それらの代表的な例文をスペイン語に翻訳してみたところ、さまざまな表現が利用できることが分かった。それらの表現の中で「のだ」とよく対応し、互いに交代できることも多いのが *y es que*、*y*、*pues*、*acaso* という4つの表現である。本論文では、それらに焦点を当てて、*es que* との類似点や相違点を観察し、日本語の「のだ」のどのような意味機能とどのように対応するかを考察する。

なぜ (*es que* も含め) 先に挙げた5つの表現を本研究の中心にするかということ、「のだ」構文を訳そうと試みたときに、この5つの表現がまず思い浮かぶことが多く、様々な例文を分析した結果、お互いに交替できる場合が多いことが分かったからである。

4. *Es que* 構文と他の類似表現

これら5つの表現が日本語の「のだ」との対応関係を詳しく考察する前に、本章では、当該のスペイン語の諸表現の特徴を概観する。

4-1. *Es que* について

Es que に関しては、それ自体の研究に加え (Gili Gaya 1961)、日本語の「のだ」構文との比較を論じた先行研究もある (福寫 1994、和佐 2005)。

Es que 構文は平叙文の場合は「説明」、「言い訳」、「弁解」など、疑問文の場合は「状況の確認」、「驚き」、「疑い」、「反論」などの意味を表す (Gili Gaya 1961)。

(9) *Ayer falté al colegio. Es que estaba enfermo.*

「昨日、学校を休みました。病気だったんです。」

(10) (母親がなかなか出かけようとしない子供に対して)

¿*Es que no vas a ir al colegio?*

「学校に行かないの？」

Es que は、(12) で理由の説明を、(13) の疑問文では意外の意味を表している。このように、スペイン語の *es que* と日本語の「のだ」は形態的にも意味的にもかなり近い。

両者の大きな相違点として指摘されているのは、*es que* は疑問詞を伴う疑問文と共に起しないということである（和佐 2005）。

(11) *¿Es que cuándo te vas?

「いつ行くの？」

(11) において、cuándo は「いつ？」を意味する疑問詞である。しかし、この制限はスペインのスペイン語における特徴であり、Kany (1945) では、南米のスペイン語では疑問詞と一緒に多用される地域があると指摘されている。

4-2. Pues について

下の例に見られるように、*pues* は接続詞で、その前に述べられたことの原因・理由を表す。

(12) No puedo ir contigo pues han venido unos amigos a visitarme.

「君と一緒に行けない。なぜなら、友達が遊びに来ているんだ。」

このように、直前の文の事情の補足的な説明を表すことから、意味の違いを生まずに *es que* と置き換えることが可能である。

(13) Cierra la ventana. Pues hace frío. (=Es que hace frío.)

「窓を閉めて。寒いんだ。」

さらに、*pues* は、*es que* と同じように、説明要求のために真偽疑問文でも用いることができる。また、疑問詞疑問文でも使うことができる。この場合、驚き、意外、不満、抗議というネガティブな（否定的な）ニュアンスを与えることが多い。

Pues と es que の意味のニュアンスに関して、平叙文ではあまりその違いが感じられない。しかし、疑問文では、**pues** は、非難や意外、対立などの否定的なニュアンスを感じるのに対し **es que** は必ずしもそうではない。

4-3. Y es que について

Es que と形式や用法が類似する表現として **y es que** がある。当該の表現は、接続詞 **y**（英語の **and** に相当）と **es que** が繋がった表現である。その用法を考察した結果、**es que** と類似する「説明要求」、「関心・興味」、「驚き」、「意外」、「非難」、「憤慨」、「困惑」、「詰問」などの意味を表すことが明らかとなった。**y es que** と **es que** は異なる振る舞いを見せる。**Es que** と異なり、**y es que** は、疑問文でしか使われない。

(14-a) ¿Es que / Y es que vas a salir a estas horas de la noche?

「夜こんな遅い時間に出掛けるの？」

(14-b) Es que / *Y es que yo siempre salgo a esta hora de la noche.

「私はいつも夜こんな遅い時間に出掛けるんだ。」

さらに、両者はニュアンスが若干異なる。(14-a)において、**es que** は発話時の眼前の状況から認識した事態を単に聞き手に確認するという意味合いでも用いられるが、**y es que** は相手に詰問したり、驚き・困惑の気持ちで聞いたりするという意味合いが強い。**y es que** については、文法書や辞書には独立した表現としての記述が見当たらない。

4-4. Y について

接続詞 **y** の基本は、名詞と名詞、動詞と動詞、節と節、文と文のように同じ資格の構造をつなぐ等位接続の機能である。ところが、**y** 単独で、**es que** や **y es que** と同じ意味機能で用いられる場合がある。

(15) ¿Y estabas enfermo?

「病気だったの？」

上の (15) は、例えば、昨日、学校を休んだ相手に対して発言している場面である。話し手の気持ちとしては、相手が普段健康的であるのに、病気で学校を休んだという出来事に対して驚きを表している。

興味深いのは、このような用法を持つ *y* は、*y es que* と同じように、疑問文においてのみ現れることである。

また、*y es que* と同様に疑問詞とも共起できる。

(16) ¿Y cuándo te vas de viaje?

「(一体) いつ旅行に行くんですか？」

例 (16) において *y* が表す意味は、*y es que* と同じである。先の (14-a) の例を *y* を用いて言い換えた例 (17) も *y es que* と同じく、相手に説明を求めたり、相手を詰問したりする際に使われる。

(17) ¿Y vas a salir a estas horas de la noche?

「夜こんな遅い時間に出掛けるの!？」

Y は、*es que* よりも怒りや驚き、非難、責などのニュアンスが強く出る。その用法は疑問文でしか現れず、今回考察した範囲では、*y es que* と全く同じと言ってよい。*Y* のこのような特殊な用法についても、文法書や辞書において（明確な）説明や記述があつてしかるべきだと考えるが、いくつかの書籍や辞書を調べてみたが、見当たらなかった。

4-5. *Acaso* について

Acaso は、話し手の判断が不確定であることを示す副詞であるが、現代のスペ

イン語では *acaso*+ 直説法は疑問文でしか用いられない。また、生起できるのは真偽疑問文だけで、疑問詞とは共起しない。

(18) ¿Acaso estaba la ventana abierta?

「(ひょっとして) 窓が開いていたのですか。」

(19) *Acaso la ventana estaba abierta.

「おそらく、窓が開いていた。」

(18) は、そのニュアンスを維持したまま、次の (20) の *es que* 構文と置き換え可能である。

(20) ¿Es que estaba la ventana abierta?

「窓が開いていたのですか。」

つまり、この *acaso* の用法も *es que* 構文の類似表現と考えることができる。

元来は英語の *perhaps* に相当する *acaso* がなぜ疑問文において *es que* と同じ用法で使われるかについては次のように考えられるのではないだろうか。日本語の「のだ」と同じように *es que* も、何らかの事態に対する説明や理由を言い表す。話し手の判断が不確定であることを示す *acaso* と疑問文の組み合わせが *es que* と同じように事態の説明（理由・原因）を表す（確認する）用法につながっているのではないかと考えられる。

5. *es que* 構文及びその類似表現と「のだ」構文との対応関係

本章では、日本語の「のだ」構文が表すさまざまな意味機能について、対応関係を考察していく。平叙文と疑問文（真偽質問文及び疑問詞疑問文）に分けて、考察の際、スペイン語の対応表現の判断においては、次の記号を用いる。

所与の「のだ」の意味機能について、スペイン語の当該表現は：

- ◎ 最も的確に対応する
- 対応させることが可能だが、これよりも的確に対応する表現が別にある
- △ 明示的には表わさないが、当該の文脈で使用可能である
- × 対応しない
- NA 当該の文型に使えないため、対応するかどうかの判断を保留

「のだ」の意味機能に関しては、先行研究によって、名称や分類の仕方が様々ある。本論文では、両言語の対応を調査するに当たり、野田（1997）をベースにして、考察の軸となる「のだ」の意味機能を分類した。それは、下記のようにまとめられる。

平叙文：「背後の事情の説明（理由）」、「背後の事情の説明（弁解）」、「解釈（理由・原因の推測）」、「解釈（理論的な結果・結論の提示）」、「言い換え」、「発見」、「先触れ」、「前置き（申し出や誘いの理由）」、「前置き（コメントや言い訳などの引き出しの予告）」、「主張」、「納得」
 真偽疑問文：「驚き」、「意外」、「非難」、「憤慨」、「困惑」、「詰問」
 疑問詞疑問文：「驚き」、「興味・関心」、「意外」、「非難」、「憤慨」、「困惑」、「詰問」

5-1. 平叙文における対応

まず、平叙文における対応関係を考察していく。尚、弁解の「のだ」を取り上げることとする。

5-1-1. 弁解の「のだ」

(21) A：明日の夜、一緒に映画見に行かない？

¿Mañana en la noche porque no vamos juntos a ver una película?

B：ごめん、ちょっと用事があるの。

Lo siento. (◎) Es que tengo un pendiente.

(○) Pues tengo un pendiente.

(NA) Yes que tengo un pendiente.

(NA) **Y** tengo un pendiente.

(NA) **Acaso** tengo un pendiente.

(△) **Tengo** un pendiente.

当該の文脈で最も的確に対応する表現は *es que* と *pues* で、対応関係は◎になる。つまり、両者は日本語の「のだ」と同様で何らかの誘いなどに対して言い訳をして断るときに用いることができる。スペイン語の二つの表現の間にニュアンスの違いはない。それに加えて、情報提供が主観的になり、従って、話し手と聞き手の間のコミュニケーションはより親しさを感じさせる効果持つ。

それに対し、*y* と *y es que* と *acaso* は疑問文でしか用いられないため、平叙文だと非文法的であり、この場面においては NA である。

一方で、日本語の場合、「明日の夜、一緒に映画見に行かない？」という誘いを断る場面では「のだ」を使わないと会話として不自然になるが、スペイン語の場合は「のだ」の意味機能を明示的に表現せずに、無標の文を用いることができる。そのため、対応関係は△になる。ただし、*es que* と *pues* の親しみを込めた弁解・言い訳のニュアンスが無くなり、単に客観的な情報を提供しているにすぎず、ぶっきらぼうでぞんざいな返事に聞こえる。

5-1-2. 平叙文における対応関係のまとめ

平叙文における「のだ」との対応関係の結果をまとめると、以下の表1のようになる。

本章の考察から *es que* と *pues* について以下のことが明らかとなった。

表1から分かるのは、*es que* には、先行研究の中で言及された「理由（先行文脈や状況の説明）」と「弁解（言い訳）」の機能以外にも、「のだ」に近い用法が存在するということである。また、従来の先行研究では詳しい記述があまりなされてないが、*pues* にも似たような用法があるということである。さらに、*es que* と *pues* のいずれか一つだけが対応する場合や、いずれも対応しない場合があることも明らかとなった。後者については、本論文では詳しい分析を行わなかったが、当該の「のだ」の機能に対応する別の表現がスペイン語に存在することを指

表1 平叙文における対応関係

「のだ」の機能	スペイン語の表現					
	Es que	Pues	Y es que	Y	Acaso	いずれもない
①平叙文						
背後の事情の説明（理由）	◎	◎	NA	NA	NA	△
背後の事情の説明（弁解）	◎	◎	NA	NA	NA	△
解釈（理由・原因の推測）	◎	×	NA	NA	NA	△
解釈（理論的な結果・結論の提示）	×	×	NA	NA	NA	△
言い換え	×	×	NA	NA	NA	△
発見	×	×	NA	NA	NA	△
先触れ	◎	◎	NA	NA	NA	△
前置き（申し出や誘いの理由）	◎	◎	NA	NA	NA	△
前置き（コメントや言い訳などの引き出しの予告）	×	◎	NA	NA	NA	△
主張	×	◎	NA	NA	NA	△
納得	◎	◎	NA	NA	NA	△

摘した。

「のだ」の背後の事情の説明（理由と弁解）、先触れ、前置き（申し出や誘いなどの理由）、そして、納得の機能については、es que と pues が当該の機能に近い用法をもち、いずれの場合もニュアンスの違いを生まずに es que を pues に言い換えることができる。一方、解釈（理由・原因の推測）の機能については es que だけが当該の機能に近い用法をもつ。それに対し、前置き（コメントや言い訳などの引き出しの予告）と主張の機能に関しては、pues だけが当該の機能に近い用法を持つことが明らかとなった。

他方、解釈（前後関係の理論的な結果・結論の提示）、言い換え、そして、発見の機能を es que と pues は持たない。ただし、別の表現（asi que）によってその意味機能を表すことができる。

5－2．疑問文における対応

本節では、疑問文における対応関係について考察する。真偽疑問文と疑問詞疑問文に分けて観ていく。

5－2－1．真偽疑問文の場合

ここで意外の「のだ」を取り上げることとする。

意外の「のだ」

(22) (妻がなかなか仕事に行こうとしない夫に対して)

もう8時過ぎだけど、今日は仕事に行かないの!?

(○) ¿Ya son más de las 8, es que no vas a ir al trabajo hoy?

(◎) ¿Ya son más de las 8, pues no vas a ir al trabajo hoy?

(◎) ¡¿Ya son más de las 8, y es que no vas a ir al trabajo hoy!?

(◎) ¡¿Ya son más de las 8, y no vas a ir al trabajo hoy!?

(○) ¿Ya son más de las 8, acaso no vas a ir al trabajo hoy?

(△) ¿Ya son más de las 8, No vas a ir al trabajo hoy ?

まず、*y es que* と *y* と *pues* に関しては、この文脈で最も的確に対応している表現であるため、対応関係は◎になる。この場面では、これらの3つの表現は、話し手が発話時に眼前の状況から認識した事態がそうであるかについて聞き手にその確認を求めていると同時に、それに対する意外の気持ちを強調して表す。また、これらの表現を使うと聞き手に確認を求めるだけでなく、その理由を詳しく教えてもらいたいという話し手の気持ちが伝わる。

それに対し、*es que* と *acaso* は話し手が発話時に眼前の状況から認識した事態がそうであるかについて聞き手に確認を求めていると同時にその理由を詳しく教えてほしいことを伝えることはできるが、意外に思っているというニュアンスは低い。そのため、対応関係は○になる。

一方、スペイン語では無標の疑問文も用いることもできるが、この文脈では日本語の場合、「のだ」を使わなければならないため、この点でスペイン語と異なる。ただし、スペイン語の場合は、「どうして今日は仕事に行かないのか」という理由を説明しなければならないといったニュアンスが無くなってしまい、また、意外の気持ちも入っていないニュートラルな質問になる。それゆえ、対応関係は△になる。

5-2-2. 疑問詞疑問文の場合

次に、疑問詞がある疑問文における対応関係を観ていく。尚、非難の「のだ」を取り上げることとする。

非難を表す「のだ」

(23) (母親が雨でびしょびしょになった息子に対して)

子供：雨に降られて、びしょびしょになってしまったよ。

Hijo: Si vieras que me agarro la lluvia y termine todo empapado.

母親：天気予報で今日は雨だと言ってたのに、なんで傘無しで出かけたの？

Madre: (○) ¿*Es que* por qué saliste sin paraguas cuando hoy habían dicho en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?

- (◎) ¿Pues por qué saliste sin paraguas cuando hoy habían dicho
en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?
- (◎) ¿Y es que por qué saliste sin paraguas cuando habían dicho
en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?
- (◎) ¿Y por qué saliste sin paraguas cuando hoy habían dicho
en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?
- (NA) ¿Acaso por qué saliste sin paraguas cuando hoy habían dicho
en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?
- (△) ¿Por qué saliste sin paraguas cuando hoy habían dicho
en el pronóstico del tiempo que hoy iba a haber lluvia?

まず、y es que、y と pues に関しては、この文脈では最も的確に対応する表現であるため、対応関係は◎になる。それは、この文脈における「のだ」と同様、話し手が眼前の状況から認識した事態について聞き手により詳しい説明を求めると同時に、事態に対する非難の気持ちを強調して表すからである。

続いて、es que も、話し手が眼前の状況を受けてその状況から認識した事態について聞き手により詳しく説明してほしいという意図は伝える。しかし、多少、非難のニュアンスが含まれているものの、y es que と y と pues とは異なって、このニュアンスの度合いが低い。このため、対応関係は○になる。

それに対し、acaso は疑問詞と共に使用することができないため、対応関係はNAになる。

スペイン語では無標の疑問文も用いることもできるが、この文脈では日本語の場合、「のだ」を使わなくても言えるが稀である。ただし、スペイン語の場合は、この文脈では、普通の質問を用いることによって、話し手は認識した事態について説明を求めるが非難の気持ちが入っていない。従って、この場合、話し手が眼前の状況に対して何も感情をもっていないように聞こえ、単に説明を求めているというニュートラルな質問になる。このため、対応関係は△になる。なお、この文脈では冷静に聞くということは実際のコミュニケーションにおいて稀だろう。

5-2-3. 疑問文における対応関係のまとめ

以上、疑問文（真偽疑問文と疑問詞疑問文）における「のだ」との対応関係について考察した。その結果を以下の表2に示す。

表2 疑問文における対応関係

「のだ」の機能	スペイン語の表現					
①真偽質問文	Es que	Pues	Y es que	Y	Acaso	いずれもない
驚き	○	◎	◎	◎	○	△
意外	○	◎	◎	◎	○	△
非難	○	◎	◎	◎	○	△
憤慨	○	◎	◎	◎	○	△
困惑	○	◎	◎	◎	○	△
詰問	○	◎	◎	◎	○	△
②疑問詞 疑問文						
驚き	○	◎	◎	◎	NA	△
興味・関心	○	◎	◎	◎	NA	△
意外	○	◎	◎	◎	NA	△
非難	○	◎	◎	◎	NA	△
憤慨	○	◎	◎	◎	NA	△
困惑	○	◎	◎	◎	NA	△
詰問	○	◎	◎	◎	NA	△

表2から分かるように、疑問詞のない疑問文の場合、驚き、意外、非難、憤慨、困惑、詰問という「のだ」が持つ機能について、スペイン語の5つの表現すべてが当該の機能に近い用法をもつということが明らかになった。また、疑問詞疑問文の場合も、驚き、興味・関心、意外、非難、憤慨、困惑、詰問の機能について、y es que、y、pues、es que は当該の機能に近い用法を有するが、acaso だけは「もしかして」という意味があるため、疑問詞疑問文に生起できず、その意味を表したくても用いることができない。

6. 結論

本論文の研究によって、スペイン語の es que には意味的に類似する表現が複数存在し、それらの表現を用いることで、es que が対応しない「のだ」の機能を表すことができるだけでなく、es que よりも的確に「のだ」の意味機能を表せることが明らかとなった。

従来、「のだ」との対応はもとより、es que との類似性についても記述があまりされてこなかった y es que と y の特徴を考察したのは、本論文の大きな成果と言えるだろう。

真偽疑問文や疑問詞疑問文における、これらのスペイン語の表現の違いに関して言えるのは、意味的な違いというよりは、むしろニュアンスの度合いの差にあるということも考察を通じて明らかになった。つまり、es que と acaso によっても驚きや意外、非難、憤慨、困惑、詰問などの意味を表すことができるが、y es que、y、pues を用いると、これらのニュアンスがさらに強調され、従って、本論文で取り上げた「のだ」の機能をより明示的に表すことができるのである。

日本語とスペイン語の大きな相違点として指摘しておきたいのは、日本語の「のだ」が必須の場面・文脈であっても、スペイン語では、「無標」の平叙文や疑問文が使用できる点である。しかし、不自然にはならないといっても、5つの表現とは意味合いが異なってしまう。例えば、平叙文の場合に es que や pues が醸し出す弁解や丁寧な理由の説明のニュアンスが無くなり、客観的な情報を提供するだけのぞんざいな返事になってしまったり、依頼など話し手が聞き手に何らかの負担をかける申し入れをすることを控えめに予告するニュアンスが無くなり、

ストレートな言い方になってしまう。真偽疑問文において、5つの表現であれば修辞疑問文のような意味合いを示唆するときも、肯定か否定で答えられる単に確認を求めるだけの質問になってしまう。また、そのような意味合いが無くならないとしても、*es que* と *pues* に潜んでいる弁解や自分を正当化するニュアンスが薄まったりすることがある疑問詞疑問文において、眼前の状況あるいは相手が言ったことに対して特に何らかの感情を示すわけでもなく、単に情報を求めているという冷静でニュートラルな質問になってしまう。

今回、対象としたスペイン語の5つの表現がどのような文型（平叙文か疑問文か）に現れることができるか、裏返せば、どのような文型に現れることができないかは、各表現の（根源的な）意味に起因する可能性があり、これについては今後の課題としたい。さらには、当該の5つのスペイン語の表現でも表せない日本語の「のだ」の機能を表すことができるとされるスペイン語の表現が存在することを指摘したが、今後は、これらの表現についても詳しく研究していきたい。

注

- 1 (8-a) と (8-b) は和佐 (2005) からの引用である。下線は本論文筆者による。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2016) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2017) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- グループ・ジャマシイ (2017) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 戴宝玉 (2020) 『日本語教育における「のだ」の研究』シリーズ言語学と言語教育 36 巻、ひつ書房
- 田野村忠温 (1990) 『現代日本語の文法 I: 「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 東京大学言語情報科学専攻 (2011) 『言語科学の世界へーことばの不思議を体験する 45 題』東京大学出版会
- 野田春美 (1997) 『「の（だ）」の機能』くろしお出版

- 福嶋教隆 (1994) 「『のだ』と es que」『国立国語研究所報告 108 日本語とスペイン語 (1)』, pp. 57-79, くろしお出版
- 山口佳也 (2011) 『『のだ』の文とその仲間一文構造に即して考える―』三省堂
- 山口佳也 (2016) 『『のだ』の文とその仲間・続編一文構造に即して考える―』三省堂
- 吉田茂晃 (1988) 「ノダ形式の構造と表現効果」『国文論叢』15 巻, pp.46-55, 神戸大学文学部国語国文学会
- 吉田茂晃 (2000) 「<ノダ>の表現内容と語性について―<ノダ>は「説明の助動詞」か」『山辺道』44 巻, pp.17-31, 天理大学国文学研究室
- 和佐敦子 (2005) 『スペイン語と日本語のモダリティー叙法とモダリティの接点―』くろしお出版
- Fernandez Leborans, M. J.(1992) “La oración tipo: ES que....” Verba 19, pp.223-239, USC. (「es que 構文」)
- Gili Gaya, S.(1961) “¿Es que...? Estructura de la pregunta general”, Separata de Homenaje a Dámaso Alonso, Madrid: Gredos.pp.91-98, Madrid: Editorial Gredos. (「¿Es que・・・? 一般的な質問文の構造」)
- Kany, Charles E.(1945) *American-Spanish Syntax*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Muñoz María M.(2017) “Análisis descriptivo de los valores del marcador discursivo pues en el registro coloquial: aportación de los repertorios lexicográficos” *Annal electrónica* 42, pp.157-178, università degli studi di catania. (「話し言葉におけるディスコースマーカー pues の値の記述的分析：語彙レパトリの貢献」)
- Villasante, M. E.(1996) “Aspectos semántico-pragmáticos de la construcción «es que» en español” *Dicenda: Estudios de lengua y literatura españolas* 14, pp.129-148, Servicio Publicaciones UCM. (「スペイン語における es que 構文の意味語用論的諸相」)
- Wasa,Atsuko(2001) La interrogación orientada: ¿Acaso...?.*Lingüística Hispánica* 24,pp.209-222 (「方向性のある疑問文：¿Acaso・・・?。」)

【参考にしたウェブサイト】

<http://www.dpde.es/>(Diccionario de partículas discursivas del español) 2020 年 12 月 15 日最終閲覧

<https://blog.lengua-e.com/2017/es-que/>(Blog de lengua) 2021 年 1 月 4 日最終閲覧

謝 辞

ここに、本論文の作成を支えてくださった主指導教員と副指導教員に心よりお礼を申し上げます。まず、博士前期課程で、「のだ」構文や、「のだ」構文とスペイン語の *es que* 及びその類似表現の対応関係の考察、論文の作成まで、有益なご指摘や熱心かつ丁寧なご指導をくださった主指導教員の岸田泰浩先生に心より感謝申し上げます。そして、副指導教員の長谷川信弥先生には、「のだ」構文と *es que* の例文収集や論文の構成に関する様々なご指摘やご助言を通じて多くの知識や示唆を頂きました。深く感謝致します。

また、ご自身も修士論文の執筆がある中で、日本語の修正のサポートをしてくださったチューターさん、また、データ分析やスペイン語の例文作成に力を貸してくれた両親に心より感謝致します。

マジョール ロドリゲス ホルヘ ダニエル

(大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻博士後期課程)

A contrastive study of the Japanese noda structure and the Spanish es que structure, as well as similar expressions Focused on es que, y es que, y, pues and acaso.

MAYOR RODRIGUEZ Jorge Daniel

The noda structure used at the end of a sentence in Japanese and its equivalent in Spanish have been the object of study in contrastive research, since both not only possess great similarity at the level of basic grammatical composition, but they also resemble each other in their semantic functions, whether in interrogative sentences or declarative sentences such as surprise, curiosity, anger, contrariness, etc.

However, in previous contrastive studies of these two structures, it has been concluded that noda does not always correspond to no da in Japanese and vice versa, and therefore in these cases the semantic functions of noda cannot be explicitly represented in Spanish.

Therefore, the author questions himself about if, in the cases in which es que does not correspond to noda, due to its semantic limitations, these functions really cannot be explicitly represented in Spanish and when examining different expressions of Spanish, he finds a range of expressions that possess semantic functions similar to those of Japanese no da structure and that make up for the limitations of Spanish es que structure in the cases that it does not correspond to this one.

In this paper we analyze the correspondence between the Japanese noda expression and es que in Spanish along with four expressions (y es que, y, pues and acaso) which fulfill similar functions to those of the Japanese no da structure.

To this end, a study of the characteristics of these expressions is carried out in the first instance, taking into account both the similarities and the differences between them. Subsequently, their correspondence with Japanese no da is analyzed through a series of examples taken from previous comparative studies, as well as from various sources

(Japanese grammar books) and others designed by the author, taking as a basis the classification of functions of the noda structure made by the author Noda Harumi (1997).

From the results it can be concluded that in Spanish there are expressions that can be used to make up for the limitations of the es que structure in cases that do not correspond to the Japanese no da or that can represent in a more explicit way than the es que structure the semantic functions of this expression in Japanese.